



SRM|FLEX

PORTABLE COLUMN PA SYSTEM

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0



安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

 	「必ず守ってください」という強制を表しています。	 	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	--------------------------	---	----------------------------



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。



禁止

大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



必ず実行

専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



禁止

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



必ず実行

確実に接地すること（アース）

感電を防止するため、確実にアースに接続してください。



必ず実行

移動するときはケーブルを全て抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。



必ず実行

電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること

電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず修理をご依頼ください。



必ず実行

電源コードは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



禁止

本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



必ず実行

他の機器と接続するときはこの製品の電源を切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



禁止

本体の換気用開口部を塞がないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

電源プラグに手が届くよう設置すること

この製品の背面には電源を遮断する電源スイッチが付いています。この電源プラグに簡単に手が届くよう設置してください。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもろうそくなど裸火を置かないでください。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。

Contents

SRM-Flex の特徴	5
はじめに	6
クイックスタート	6
接続図	7
ベースステーション	11
SRM-Flex Connect™ アプリ	11
SRM-Flex: リアパネルの機能	11
1. 電源コネクタ	11
2. 電源スイッチ	11
トップパネルの機能	12
3. POWER LED	12
4. XLR & バランスフォンコンボジャック入力端子 [Ch.1/2]	12
5. マイク - ライン / Hi-Z スイッチ [Ch.1/2]	13
6. 1/4 インチ ステレオライン入力端子 [Ch.3/4]	13
7. SIG/OL LED	13
8. 1/8 インチ ステレオライン入力端子 [Ch.5/6]	13
9. Bluetooth ボタン [Ch.5/6]	13
10. VOLUME ノブ	14
11. RVB センドノブ [Ch.1/2]	14
チャンネル EQ	14
12/13. LOW/HI EQ ノブ [Ch.1/2]	14
14. RVB ボタン	15
15. スピーカーモードボタン	15
16. SUPER POWER ボタン	15
17. MASTER VOLUME ノブ	16
18. メインメーター	16
19. LIMITER LED	16
20. MIX OUT 端子	16
保護回路	17
AC 電源	17
お手入れとメンテナンス	17
設置について	18
ルーム・アコースティック	18
付録 A：サービスについて	19
付録 B：技術情報	20

SRM-Flex の特徴

- ・ 軽量、コンパクト、戦車級に頑丈
- ・ オールインワン軽量設計はすべてのライブパフォーマンスに最適
- ・ ものの数分でセッティングが可能
- ・ 様々な会場にジャストフィット
- ・ 頑丈な設計、高耐久性
- ・ 実績のある SRM サウンド、超ワイド指向性
- ・ 最大のヘッドルームとトップパフォーマンスを確保することが可能な 1300W パワーアンプ
- ・ 2 インチ×6 ワイドディスペーションアレイ構造の高域ドライバーユニットと 10 インチ低域ドライバーユニットを装備し明瞭度の高いサウンドを広範囲にわたり提供
- ・ 最適なカバーエリアと明瞭度を確保する 3 段階高さ調整が可能な高域ドライバーユニット
- ・ 最大で 100 人規模のイベントで使用可
- ・ すべてをワイヤレスでコントロール可能な SRM-Flex Connect™ アプリ
- ・ スマートホンとペアリングしチャンネルレベル、EQ、リバーブ、システムプリセットなどすべてをワイヤレスでコントロールが可能
- ・ マイクスタンド設置のスマートホンでミュージシャンが自身でコントロールしたり、ミキシングエンジニアが客席からワイヤレスでコントロールが可能
- ・ iOS および Android® デバイスの両方に対応
- ・ 音楽ワイヤレスストリーミング
- ・ バンド転換時の BGM やバックグランドトラックを再生したいですよね？ケーブルや CD プレーヤーは不要です。Bluetooth® 対応デバイスのスマートホンやタブレットに保存してある音源をワイヤレスで再生することができます。
- ・ 内蔵 6 チャンネルデジタルミキサー
- ・ マイク、楽器、メディアプレーヤが入力可能な 6 チャンネルデジタルミキサー実装
- ・ 2 本目の SRM-Flex やメイン FOH ミキサーへの音声出力が可能な XLR ミックス出力
- ・ 直感的なサウンドコントロール
- ・ Ch1 と Ch2 に接続したマイクやギター、キーボードなどを最適なサウンドメイキングすることができる 2 バンド EQ
- ・ 用途や会場に合わせ瞬時に最適なサウンドをセットアップすることができる 3 種類のアプリケーションボイシングモード (Music, Speech, Live)
- ・ 素敵なリバーブ
- ・ ライブ演奏やカラオケなどで大活躍する 3 種類のリバーブ (1 種類選択)
- ・ 瞬時に操作が可能な物理コントロールノブ
- ・ スマートフォンを忘れても大丈夫。必要な機能は本体実装の物理的ノブでも瞬時にコントロールすることが可能です。
- ・ 同梱アクセサリ
- ・ アレイモジュール / エクステンダー収納用キャリーバッグ
- ・ サブウーファー / ミキサーモジュール用保護カバー

*SRM-Flex Connect は iOS 11 以上もしくは Android 6 以上で動作を確認しています。

はじめに

Mackie SRM-Flex ポータブルコラム PA システムは 20 年もの実績を誇る Mackie SRM シリーズの最新モデルです。軽量コンパクト設計、様々な用途で柔軟に対応することが可能で直感的なコントロールができる Mackie デジタルミキサーも搭載しております。

カスタム設計の 2 インチ×6 ワイドディスペーションアレイ構造の高域ドライバーユニットと 10 インチ低域ドライバーユニットを 1300W ハイパワーパワーアンプで駆動する Mackie SRM-Flex は十分なヘッドルームを確保し、クリアで明瞭度の高いサウンドを広範囲にわたり提供いたします。

6ch デジタルミキサーを装備し、本体実装の物理的なノブだけでなく iOS、Android® の Bluetooth® デバイスからワイヤレスでコントロールすることができ、誰でも瞬時に最適なセットアップが可能です。さらに Bluetooth デバイスに保存してある音楽やバックিংトラックなどもワイヤレスで再生することができます。

ソロミュージシャンやバンド、企業イベント、学校などでの使用に最適です。

このマニュアルの使い方



この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続図ではよくあるセットアップを説明しています。



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み覚えておくことをお勧めします。この手のひらアイコンにて示される領域には特に注意を払うことをお勧めします。



より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。

ノートアイコンの隣に表示されるテキストにも注意を払ってください。このアイコンは、SRM-Flex の使用に関連する特定の機能などを説明しています。

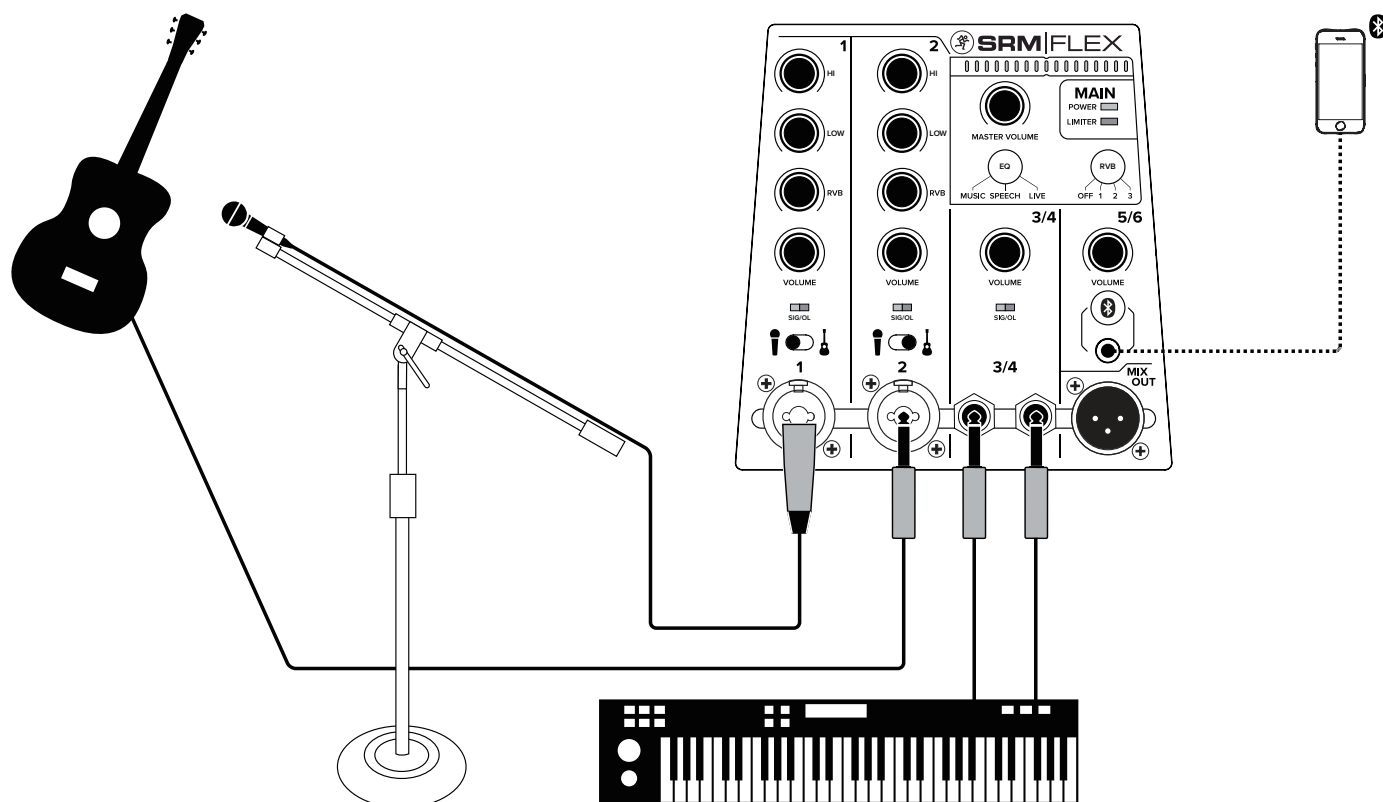
クイックスタート

以下の手順に従うことでスピーカーを素早く設定できます。

1. ケーブルを接続する際は全ての機器の電源スイッチをオフにしてください。
2. 高さ調節モジュールと高域ドライバーコラムをサブウーファーに接続してください (P.11 でより詳細を説明しています)。
3. 下記のように信号ソースを接続します。：
 - ・マイクを XLR3 ピンケーブルを使用しマイク入力 XLR3 ピン端子に接続
 - ・アクティブピックアップを取り付けたアコースティックギターなどの楽器レベルソースは楽器入力フォン端子へ接続
 - ・キーボード、ドラムマシン、MP3 プレイヤーなどのラインレベルソースはステレオライン 3/4 入力端子へ接続
4. 電源ケーブルを製品本体に差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続してください。
5. SRM-Flex の電源を入れてください。
6. Bluetooth を介してスマートフォンをペアリングしてください。
7. SRM-Flex の入力端子に接続した機器のボリュームは、通常使用する際と同じにしてください。
8. 快適なリスニングレベルになるまで、ゆっくりとメイン出力レベルをあげてください。

その他の注意

- ・長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。P.2~P.3 の安全条項をよく読んでください。
- ・梱包箱と同梱物は大切に保管してください。いつか必要になる時がくるかもしれません。梱包箱がペットの遊び場になってしまっても、怒らないであげてくださいね。
- ・保証書は大切に保管してください。



SRM-Flex はシンガーソングライターが地元のカフェ・ツアーを行う際の完璧なツールです。とっておきのギターとマイク、そして SRM-Flex と電源ケーブル、接続ケーブルを持ち込みましょう。スペシャルゲストとしてキーボーディストが何曲か参加することはありますか？その場合、キーボードと電源ケーブル、接続ケーブルを持ち込んでもらうよう事前に依頼しておいてください。

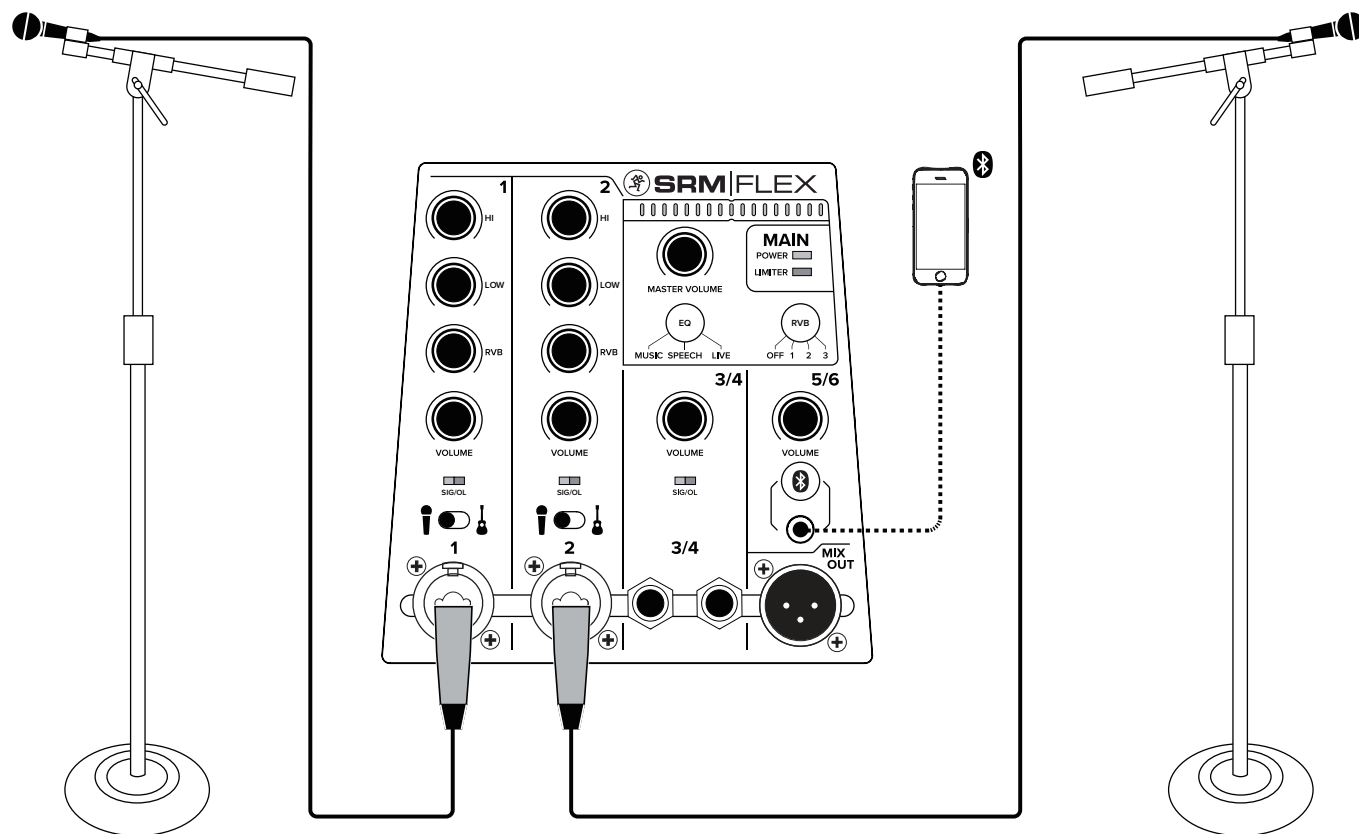
この接続例では、ダイナミックマイクを SRM-Flex の Ch.1 に接続しています。ダイナミックマイクを Ch.1 に接続しているため、XLR 入力端子にあるマイク-ライン /Hi-Z スイッチを左側（マイクのアイコン側）にセットしてください。

次にギターを Ch.2 の入力端子へ直接接続します。エフェクターを使用する場合は、ギターをエフェクターの入力端子へ接続し、もう 1 本ケーブルを用意してエフェクターの出力端子から Ch.2 の入力端子へ接続します。ギターを Ch.2 に接続しているため、入力端子にあるマイク-ライン /Hi-Z スイッチを右側（ギターのアイコン側）にセットしてください。

スペシャルゲストのキーボード音源は、ステレオ入力 Ch.3/4 に 1/4 インチジャックのケーブルを利用して接続してください。最後にスマートフォンを Bluetooth でペアリングしステレオ入力 Ch.5/6 にアサインしてください。スマートフォンは転換中の BGM を再生したり、バックキング・トラックを再生するのに使用してください。

出力に対しては環境に合わせてスピーカーモードを設定できます。スピーカーモードについて詳しくは P.15 をご参照ください。今回のセットアップでは、LIVE モードを使用するのがお薦めです。

接続図



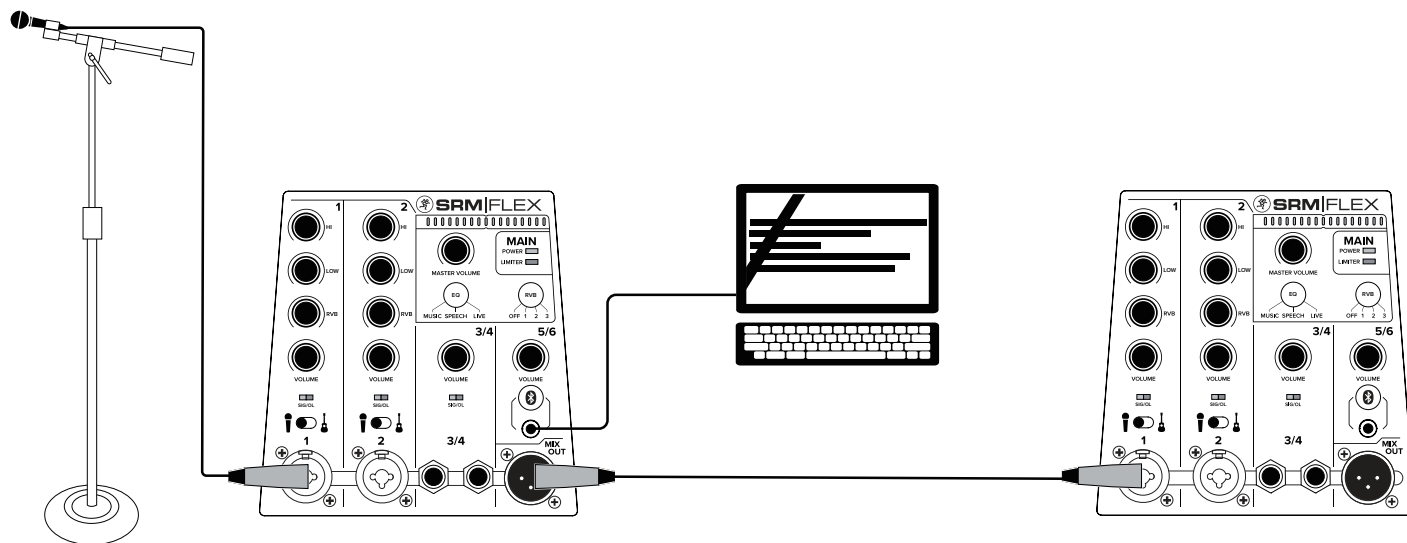
SRM-Flex は非常にシンプルかつパワフルなツールです。プレゼンやカラオケ、その他似たようなセッティング時にも使用できます。

ここでは Ch.1 と Ch.2 にそれぞれマイクを接続しています。ダイナミックマイクを 2 つのチャンネルに接続しているため、それぞれ XLR 入力端子にあるマイク - ライン / Hi-Z スイッチを左側（マイクのアイコン側）にセットしてください。

スピーカーモードを SPEECH にセットし、会社の従業員や評議員、株主、展示会の参加者、、、などにグレートなニュースを届けましょう！

スピーチが終わったら、カラオケ大会が始まることもあるでしょう。または土曜の夜に友達を招待してカラオケを楽しむなんてこともありますよね。どちらにしても、Ch.1 および Ch.2 に接続されているマイクはそのままにしてください。あとはスマートフォンを Bluetooth でペアリングしステレオ入力 Ch.5/6 にアサインしてください。スマートフォンにはもちろん、カラオケ音源が満載されていることでしょう。さて、何を歌いますか？

カラオケの場合、スピーカーモードを MUSIC に設定してください。スピーカーモードの詳細は P.15 を参照してください。



友達の結婚式に DJ として参加することになったとしましょう。幸せな新郎新婦とその取り巻きを一晚中グルーヴィな音楽でダンスさせることだって、SRM-Flex を使えば簡単です。

ここでは、マイクが SRM-Flex の Ch.1 に接続され、XLR 入力端子にあるマイク - ライン / Hi-Z スイッチを左側（マイクのアイコン側）にセットしています。このマイクは新郎新婦のために用意される特別なマイクとなることでしょう。披露宴の司会者が「新郎新婦のはじめての共同作業です。」と来賓の方々を盛り上げるためにアナウンスするために使われることでしょう。新婦の親友の余興で、てんとう虫が主役の歌を歌い始めても我慢して聞いていてくださいね。SRM-Flex から流れるサウンドは最高ですから！

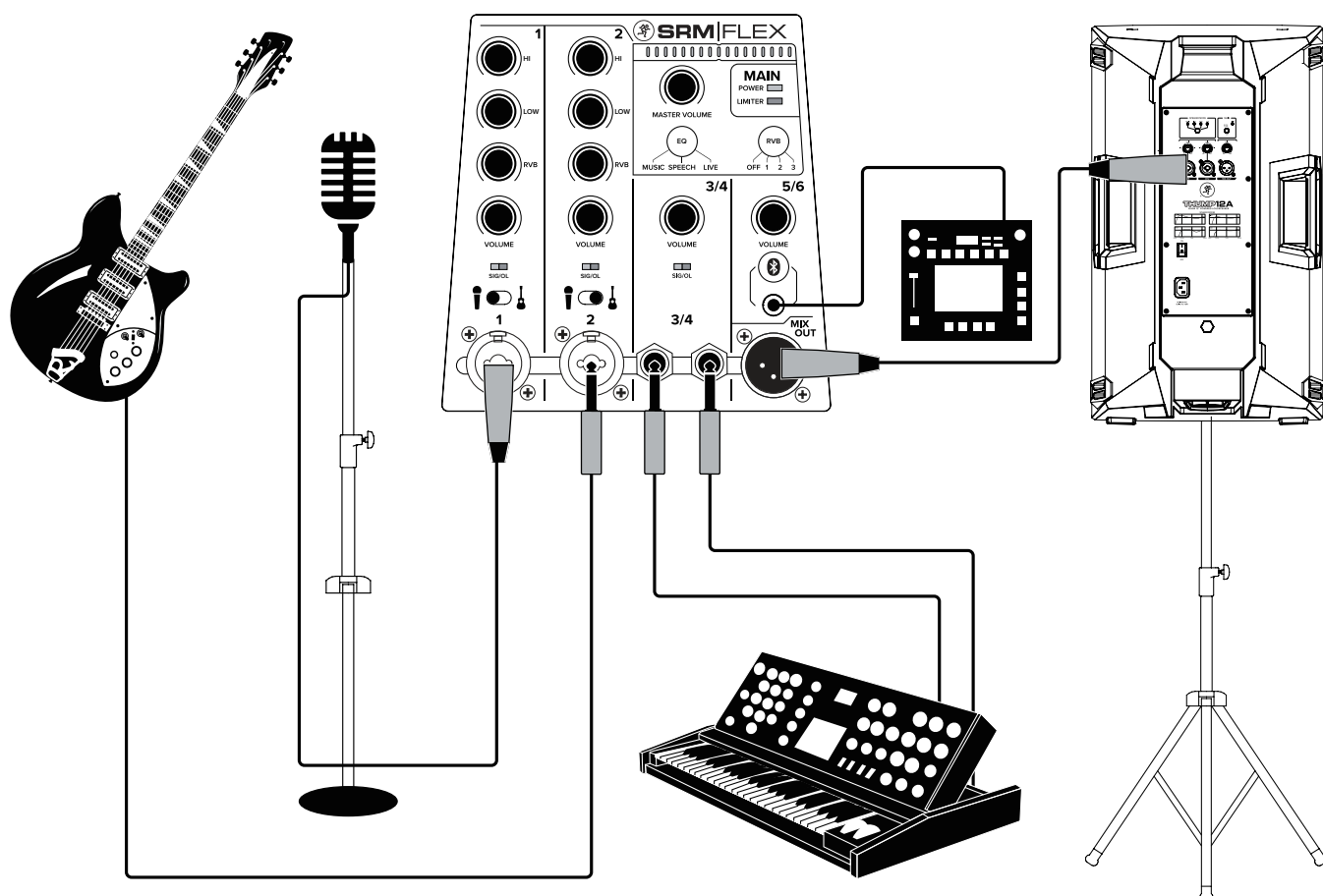
全てのミュージックプレイリストは DJ のラップトップ内に用意されており、ラップトップから直接 Ch.5/6 の 1/8 インチステレオ入力端子に接続されています。

また、MIX OUT 端子に XLR ケーブルを接続し、もう一台の SRM-Flex の Ch.1 入力に接続しましょう。

2 台の SRM-Flex は両方とも SPEECH モードにセットし、乾杯の挨拶が終わり次第 MUISC モードに変更し、ダンサブルな BGM を再生しましょう。

豆知識：それぞれの SRM-Flex に花を飾り付け、ウェディング仕様にしましょう！

接続図



さて次は小さなクラブシステムについて説明します。必要な機能がすべて搭載されているにも関わらず SRM-Flex は非常にコンパクトなため、積載する車のスペースに今まで以上に余裕が生まれます。

ここではマイクを Ch.1 [マイク - ライン / Hi-Z スイッチは左のマイクアイコン側にセットします] に接続し、マッシュルームカットがお似合いのギターは Ch.2 [マイク - ライン / Hi-Z スイッチは右のギターアイコン側に] に接続します。アナログシンセサイザーは直接 Ch.3/4 ステレオ入力端子に接続し、ドラムマシンは 1/8 インチ入力端子を搭載している Ch.5/6 に接続してください。

また、MIX OUT 端子に XLR ケーブルを接続し、別に用意した Mackie Thump12A の Ch.1 入力に接続しましょう。Thump12A は、ステージや SRM-Flex から離れているオーディエンスを狙い設置しましょう。

スピーカーモードは LIVE がおすすめです。あなたのライブを心待ちにしているオーディエンスがたくさんいます。頑張ってください！

Small Club System

ベースステーション

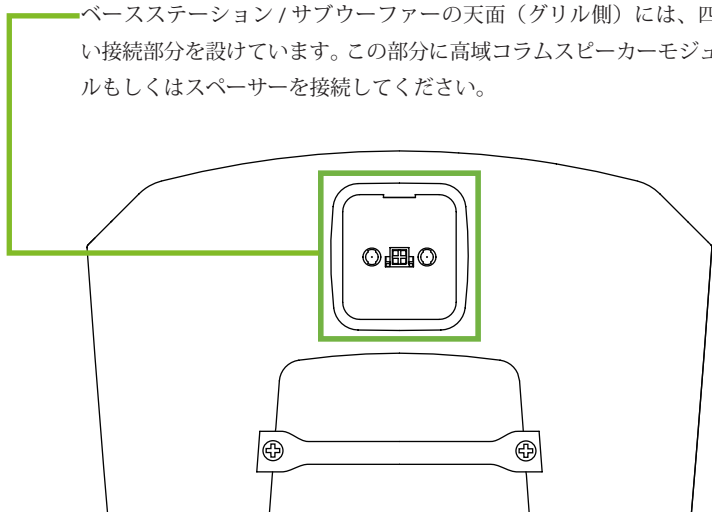
SRM-Flex 本体に機器を接続する前に、高域コラムスピーカーモジュールをベースステーション/サブウーファーに接続してください。コラムスピーカーモジュールは、高さ調整モジュール（スパーサー）を使って好みの高さにセットしてください。スパーサーを必ずしも使用する必要はありません。



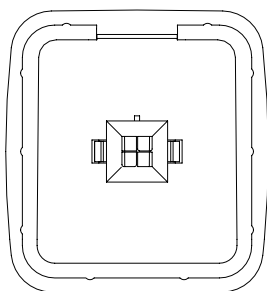
高域コラムスピーカーモジュールが接続されていないと、SRM-Flex から良い音は再生されません。間違いなく良い音では有りません。サブウーファーによる低域のみしか音が再生されないからです。

観客と SRM-Flex の位置関係は、何個のスパーサーが必要なかを把握する手助けとなります。設置場所は良い音を再生するうえで非常に重要な要素となります。詳細は P.18 を参照してください。設置場所は、スパーサーを接続する前に決定してください。

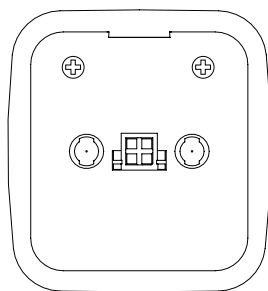
ベースステーション/サブウーファーの天面（グリル側）には、四角い接続部分を設けています。この部分に高域コラムスピーカーモジュールもしくはスパーサーを接続してください。



スパーサーの天面および底面には Molex タイプのコネクターを搭載しており、この部分を確認することでスピーカーモジュールとの見分けがつくようになっています。スピーカーモジュールのフロントグリルにはランニングマンのロゴが貼られており、天面にコネクターはありません。そのため、スピーカーモジュールは最後にベースステーションへ接続してください。



底面コネクター



天面コネクター

接続は簡単です。スパーサーとスピーカーモジュールが接続できるのは互いに一方向のみです。底面と天面のコネクターの違い、およびスパーサーとモジュールのフロントグリルの位置で判断してください。スパーサーとスピーカーモジュールの背面はフラットでグリルはなく、ネジ穴が空いています。



ただしどのネジも緩めないでください。保証対象外になってしまう可能性があります。

SRM-Flex Connect™ アプリ

SRM-Flex は専用アプリ「SRM-Flex Connect」と連携して使用することができます。アプリを使うと、本体で設定できるもの以上の機能を発揮することができます。更に Bluetooth を介して接続することで、リモートでの操作を可能にします。SRM-Flex Connect を使うことで、電源のオン/オフ、マイク-ライン/Hi-Z 選択、および Bluetooth 機器のペアリング以外全ての操作を行うことができます。

SRM-Flex: リアパネルの機能

1. 電源コネクター

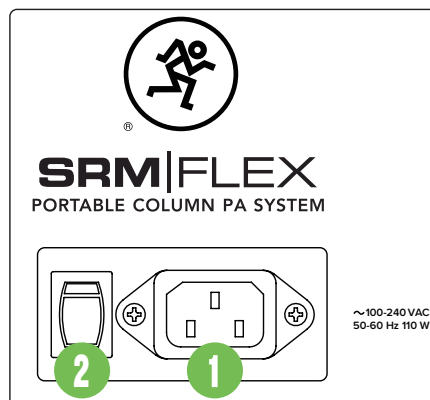
これは IEC に準拠した標準的な 3 ピンタイプの電源コネクターです。取り外し可能な電源コード（製品に同梱）を電源部分のソケットに差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続します。



必ず電源ソケットの隣に表示された仕様の電源に接続してください（SRM-Flex 電源コネクター右横に明記してあります）。



アースは確実に接地してください。アースを接地しないことは危険です。



2. 電源スイッチ

このスイッチの上部を押し込むとスピーカーの電源がオンになります。またこのスイッチの下部を押し込むとスピーカーの電源がオフになります。

SRM-Flex: トップパネルの機能

3. POWER LED

SRM-Flex の電源がオンになると、この LED が緑色に点灯します。この LED が点灯していない場合、それは即ち電源が入っていないことを意味します。その状態でしたら、新聞の朝刊が風で飛ばされないようにするための重しにでも使ってください。

LED が点灯しない場合、電源コードの両端が本体とコンセントに間違いなく接続されているかと、電源スイッチがオンになっているかをもう一度確認してください。



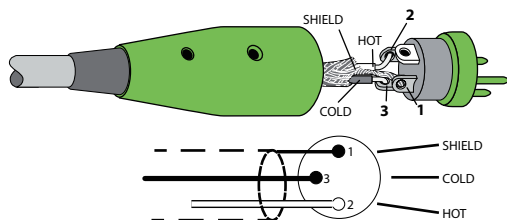
ベースステーション / サブウーファーのフロントパネル下側と高域コラムスピーカーモジュールのフロントパネル上部には、水平の LED バーが搭載されています。これらの LED バーも POWER LED と同様に、電源が入ると緑色に点灯します。これらの LED は SRM-Flex Connect アプリを使うことで、消灯したり、入力信号に応じて点灯したりと設定を変えることができます。

4. XLR & バランスフォンコンボジャック入力端子 [Ch.1/2]

これらの入力チャンネルは、XLR 端子を使うことでマイク信号をバランスで受けることができます。マイクを使う場合は必ず XLR3 ピンケーブルで接続してください。配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

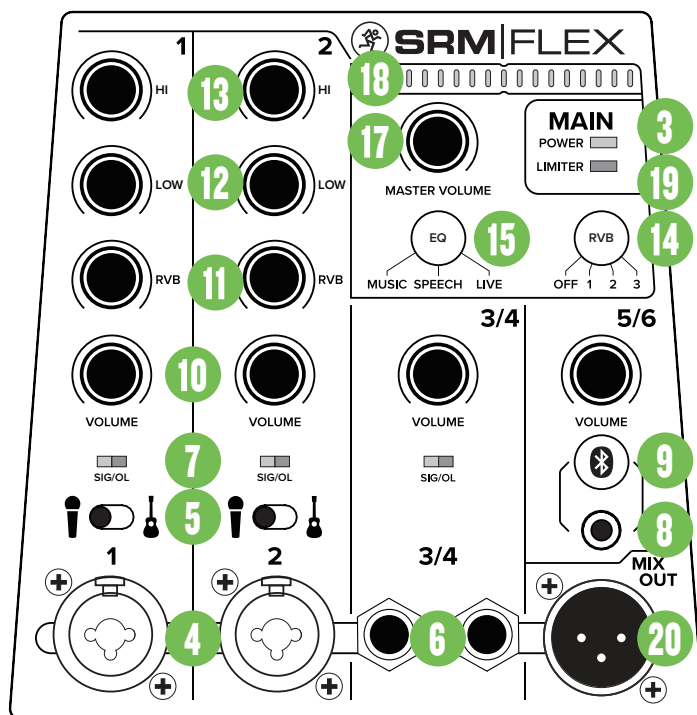
XLR バランス配線：

- Pin 1 = シールド (グラウンド)
- Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)
- Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)



この端子は XLR に加え、1/4 インチ TRS にも対応するコンボジャックとなっています。ラインレベルの音源は 1/4 インチフォン端子に接続してください。

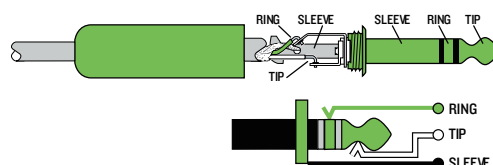
加えて、両チャンネルは Hi-Z 接続にも対応しているので、ギターなどのハイインピーダンス楽器を DI ボックス無しで直接接続することができます。その場合、マイク-ライン/Hi-Z スイッチを右側にセットしてください。



バランスラインレベル信号をこれらのチャンネルに入力する場合は、TRS フォンをご利用ください。TRS はチップ-リング-スリーブの略で、ステレオ 1/4 インチのプラグの 3 つの接点を表しています。ケーブルは下図のように配線してください。

1/4 インチ TRS バランス MONO 配線：

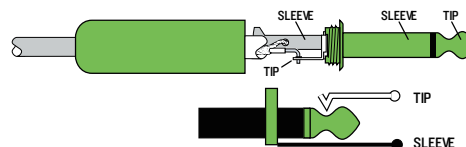
- スリーブ = シールドまたはグラウンド
- チップ = 陽極 (+ またはホット)
- リング = 陰極 (- またはコールド)



アンバランスラインの信号を入力端子に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン (TS) を使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチ TS アンバランス MONO 配線：

- スリーブ = シールドまたはグラウンド
- チップ = 陽極 (+ またはホット)



決してパワーアンプからの出力を入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。

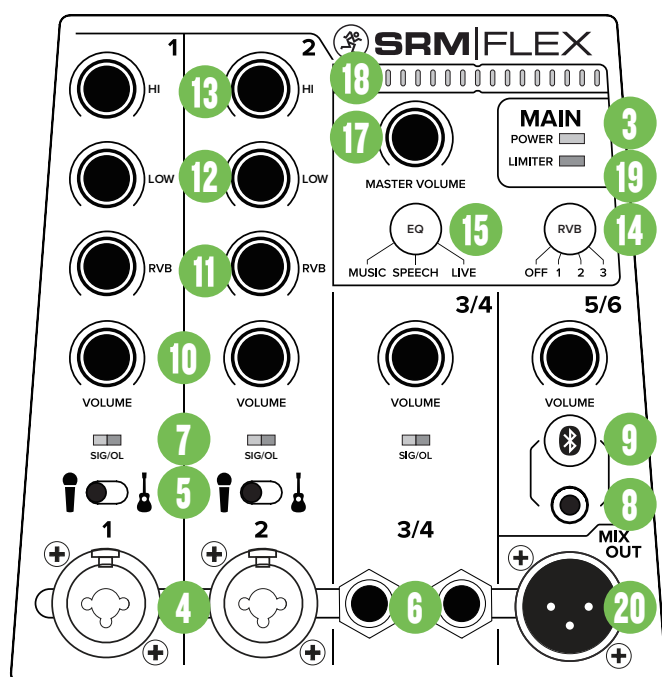
SRM-Flex: トップパネルの機能

5. マイク - ライン / Hi-Z スイッチ [Ch.1/2]

DI ボックスを使用せずに直接ギターを接続する場合、まずスイッチをギターアイコンがプリントされている右側にセットしてください。その後、Ch.1 もしくは Ch.2 入力端子にギターケーブルを接続してください。入力インピーダンスは直接接続用に最適化されており、高域を忠実に再現します。

スイッチを左側にセットすると、1/4 インチ TRS 入力信号はその他のモノラルライン入力と同様のラインレベルとなります。マイクを接続する場合は XLR3 ピンケーブルで XLR3 ピン端子に接続し、このスイッチを左側にしてください。1/4 インチフォン端子にマイクを接続しても音は出ません。

DI ボックスを使用しなかったり、このスイッチが右側にセットされてなかったりすると、ギターサウンドは鈍くぼんやりした音になります。



6. 1/4 インチ ステレオライン入力端子 [Ch.3/4]

1/4 インチ TRS バランスフォンもしくは 1/4 インチ TS アンバランスフォンをこの端子に接続できます。ラインレベルの楽器、エフェクター、CD プレイヤーなどを接続できます。

モノラル音源を接続する場合、左側の入力端子を使用してください。これによりメインミックスの両方からモノラル信号が出力されます。尚、この端子はマイクに対応していません。1/4 インチフォン端子にマイクを接続しても音は出ません。

7. SIG/OL LED

このデュアルカラーの LED は、入力信号を感知すると緑色に点灯します。-20 dBu 以上の信号が入力されている限り LED は点灯し続けます。

チャンネルに入力される信号のレベルが高すぎる場合は赤色に点灯し、信号が OL (オーバーロード) していることをお知らせします。OL LED が点灯してしまうと、音声信号が歪んでしまう可能性があります。OL LED が常時点灯する場合は、入力機器に対して適切にボリュームノブが設定されているかを確認してください。入力信号が -3dB に達するとクリッピングが発生します。

8. 1/8 インチ ステレオライン入力端子 [Ch.5/6]

1/8 インチステレオライン入力チャンネルは、スマートフォン、タブレット、MP3 プレイヤーなどのソースからラインレベルの信号を入力できます。尚、この端子は Bluetooth の回路を経由しており、音の遅延が発生します。外部ミキサーなど接続には向いていません。



決してパワーアンプからの出力をスピーカーの入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。



1/8 インチステレオミニ端子と Bluetooth を同時に接続して使用することはできません。この端子に物理的にケーブルを差し込むと、Bluetooth 接続に対して有線接続が優先されます。例えばスマートフォンを Bluetooth で接続し音楽を再生している際に、MP3 プレイヤーをこのチャンネルに有線で接続すると、MP3 プレイヤーからの音源が優先されます。

9. Bluetooth ボタン [Ch.5/6]

1/8 インチステレオライン入力チャンネルは Bluetooth [ステレオオーディオストリーミング] 機能により、スマートフォン、タブレット、MP3 プレイヤーなどのソースから信号を入力することができます。



ペアリングモードに入るには、Bluetooth ボタンを押してください。ペアリングモード中は、黄色の LED が点滅します。SRM-Flex がペアリングモードに入ると、LED の点滅と同時に Bluetooth デバイスをスキャンします。お持ちのデバイスのリスト上に SRM-Flex が表示され、「SRM-Flex」をタップすることで選択できます。SRM-Flex を選択後、お持ちのデバイス上で問題なくペアリングできているかどうか確認してください。また問題なくペアリングができていれば、Bluetooth LED が黄色に点灯します。もし上手くいかなかった場合、ペアリングの作業をもう一度行ってください。この時、SRM-Flex とお持ちのデバイスが同時にペアリングモードに入っているかどうかをご確認ください。



NOTE

SRM-Flex は電源を切っても最後にペアリングした Bluetooth 接続を保存しています。再度ペアリングする必要はありません。



NOTE

デバイスがペアリングされている状態で Bluetooth ボタンを長押しすると、ペアリングされているデバイスとの接続を切断し、ペアリングモードに移行します。



VERY IMPORTANT

静電気放電 (ESD) が発生すると、機器の誤動作の引き金となり Bluetooth 接続が解除される場合があります。その場合は手動で再接続してください。

SRM-Flex: トップパネルの機能

10. VOLUME ノブ

このロータリーノブで、マスターバスに送られる相対的なボリュームを調整できます。これにより接続した機器の信号を適切なオーバーレディングレベルまで調整できます。

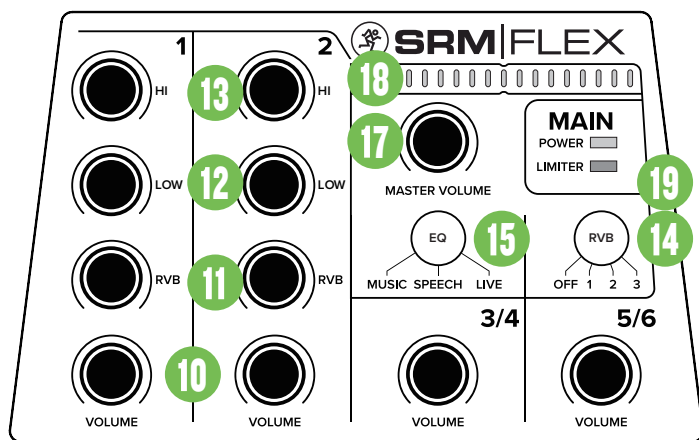
ノブを回すと、メインメーターには回したチャンネルの入力信号レベルが表示されます。5 秒間何もしない状態が続くと、メインメーターには出力レベルが表示されます。

NOTE このノブには可動範囲が定められていませんが、パラメータには最小値と最大値が定められています。例えば、入力レベルが最大となった場合、ノブをいくら回してもその値を上回ることはありません。反対に、入力レベルが最小となった場合、ノブをいくら回してもその値を下回ることはありません。

- ・ チャンネル 1-4: -∞ dB (off) から +16.0 dB (max)
- ・ Bluetooth: -∞ dB (off) から +10.0 dB (max)

これらのノブは以下のような場合に、モーメンタリースイッチとして使用することもできます。

- ・ 1 回押すことで現在の入力レベルを確認できます。
- ・ 3 回押すことで現在の入力レベルをゼロにすることができます。
- ・ 2 秒間押したままにすることで、入力レベルのピークを確認できます。



11. RVB センドノブ [Ch.1/2]

これらのノブでチャンネル毎にかけるリバーブの度合いを選択できます。

ノブを回すと、メインメーターには回したチャンネルのリバーブレベルが表示されます。5 秒間何もしない状態が続くと、メインメーターには出力レベルが表示されます。

NOTE このノブには可動範囲が定められていませんが、パラメータには最小値と最大値が定められています。例えば、リバーブレベルが最大となった場合、ノブをいくら回してもその値を上回ることはありません。反対に、レベルが最小となった場合、ノブをいくら回してもその値を下回ることはありません。

- ・ リバーブレベル: 0% (off) から 100% (max)

これらのノブは以下のような場合に、モーメンタリースイッチとして使用することもできます。

- ・ 1 回押すことで現在のリバーブレベルを確認できます。
- ・ 3 回押すことで現在のリバーブレベルをゼロにすることができます。



リバーブを感じることはできませんか？ SRM-Flex 本体もしくは SRM-Flex Connect アプリでリバーブが有効になっていることを、今一度確認してください。

チャンネル EQ

Ch.1/2 は 2 バンドの、6.0 kHz のハイシェルピング EQ と 90 Hz のローシェルピング EQ を搭載しています。「シェルピング」とは、設定した一定の周波数に対して、全ての周波数をブーストもしくはカットする機能です。例えば低域の EQ を最大（低域ブースト）にすると、90Hz の帯域に 5dB のローシェルピングが適用され、それ以下の周波数をカットします。反対に高域 EQ を最大までブーストすると、6.0 kHz 以上の帯域にハイシェルピングが適用され、それ以上の周波数をカットします。



EQ をかけすぎると、かえって満足のいかない結果となることもあります。Mackie はユーザーの皆様のため、EQ 回路に多くのブースト・カット機能を搭載しています。EQ をかけすぎると、ミックスのバランスが取れなくなりますので、イコライジングはカットやブーストを用いて僅かな変化を加えるようにします。何度も何度もブーストやカットを繰り返していることに気付いた場合、マイクの設置場所を変更したり、別のマイクに変えてみたり、ボーカリストを変えてみたり、弦を変えてみたり、うがいをしてみたりして、音源に変更を加えることを検討してください。

12/13. LOW/HI EQ ノブ [Ch.1/2]

これらのロータリーノブにより、Ch.1/2 の入力信号に対し EQ のブーストおよびカットができます。

ノブを回すとメインメーターに該当チャンネルの EQ のブースト / カット状態が表示されます。センター LED は 0 dB (フラット) を表します。5 秒間何もしない状態が続くと、メインメーターには出力レベルが表示されます。



このノブには可動範囲が定められていませんが、パラメータには最小値と最大値が定められています。例えば、EQ レベルが最大となった場合、ノブをいくら回してもその値を上回ることはありません。反対に、レベルが最小の -15 dB となった場合、ノブをいくら回してもその値を下回ることはありません。

- ・ Low EQ: -15 dB (カット) ~ +5 dB (ブースト) @ 90 Hz

この周波数はバスドラム音やベース音、ファットなシンセ音、もしくは朝食に牛丼特盛を食べるようなシリアスな男性ボーカルなどを代表とする、パンチのある帯域です。

- ・ Hi EQ: -15 dB (カット) ~ +5 dB (ブースト) @ 6 kHz

シンバルにシズル感を加えたり、全体的な透明感を加えたり、キーボードやボーカル、ギターのエッジを際立たせたりするのに使用します。またはカットすることで歯擦音を減らしたり、ヒスノイズをマスキングしたりすることができます。

SRM-Flex: トップパネルの機能

これらのノブは以下のような場合に、モーメンタリースイッチとして使用することもできます。

- ・ 1 回押すことで現在の EQ レベルを確認できます。
- ・ 3 回押すことで現在の EQ レベルをゼロ（フラット）にすることができます。
- ・ 2 秒間押したままにすることで、入力レベルのピークを確認できます。

14. RVB ボタン

音にリバーブをかけたい？そんなあなたに朗報です。使用したいリバーブが白色に点灯し選択されるまで、このボタンを繰り返し押してください。

- ・ OFF [デフォルト] - リバーブ無し
- ・ 1 - Small room
- ・ 2 - Medium room
- ・ 3 - Large room

リバーブレベルの設定については P.14 を確認してください。

15. スピーカーモードボタン

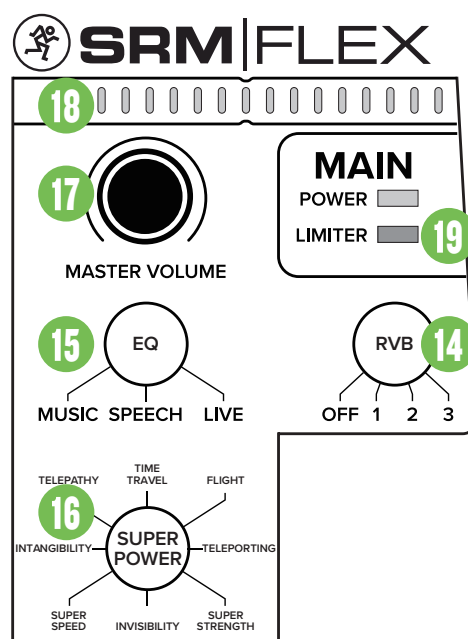
ここでは各モードの中からお使いの環境にあった適切なモードを選択し、スピーカーを最適化することができます。使用したいモードが白色に点灯し選択されるまで、このボタンを繰り返し押してください。

以下 3 種類のモードより選択が可能です。:

- ・ MUSIC モード [デフォルト] - 低域と高域を増幅した、フルレンジのモードです。ほぼ全ての音楽再生に最適です。
- ・ SPEECH - このモードは不要な低周波ロールオフを大幅に取り除きます。加えて、スピーチ音源の特徴となる中域と高域にブーストをかけ、内容を聞き取りやすくすることができます。

このプラグアンドプレイモードは、広いスペースでもクリアな音質が求められるスピーチ用セットアップに最適です。

- ・ LIVE - シンガーソングライターやその他ライブパフォーマンスに最適な、フラットなモードです。



16. SUPER POWER ボタン

このボタンは兵器を売りつける謎の組織に誘拐され、最強の兵士に改造されてしまった 9 人の特殊能力に匹敵するパワーを得ることができる（かも？）しれない非常に危険なボタンです。世界から争いを無くすためだけのみに使用してください。

SRM-Flex では 9 人分ご用意できませんでした。下記 8 種類から選択してください。:

- ・ TELEPATHY [Default] - 1 や 3 の能力同様、思考や頭の中の情報を他人へ送ったり、受け取ったりすることができます。
- ・ TIME TRAVEL - 別の時間空間（過去、もしくは未来）へ移動することができます。
- ・ FLIGHT - 2 の能力同様、空を飛ぶことができます。
- ・ TELEPORTATION - 瞬時に別の場所に移動できます。
- ・ SUPER STRENGTH - 5 の能力同様、怪力を発揮することができます。
- ・ INVISIBILITY - TELEPORTATION の能力に近いパワーです。瞬時に加速するための装置を装備した 9 や 2 の能力同様のパワーです。
- ・ SUPER SPEED - 超人的な素早さが身に付きます。INVISIBILITY や TELEPORTATION の機能に似てますね。
- ・ INTANGIBILITY - 7 の能力同様、体細胞の分子配列を自由に变化させられ体を自由に变化させられる機能です。
Ex.) 壁をすり抜けて移動できます。



スーパーパワーは強い人の心を持った状態で使わないと、悪のパワーと化してしまいます。黒い闇の野望を打ち砕くためのみにお使いください。その他の行為で使われた場合、非常に危険な状態に陥ってしまうので絶対に使用しないでください。



このボタンは 9 人に改造手術を施した博士によってのみ追加が可能な特殊な別売オプションです。標準機の SRM-Flex には実装されていません。現在、博士は 9 人と世界から争いを無くすべく戦っているため、当面の間このオプションを実装させることができません。何卒ご理解ご了承のほどよろしくお願いいたします。

SRM-Flex: トップパネルの機能

17. MASTER VOLUME ノブ

このノブを回すことで、全体の出力レベルを調整できます。これによりオーディエンスに届く全体のサウンドレベルを、直感的に調整することができます。メーターを目で見てオーバーロードしないように、また耳でサウンドをよく聞いて適正なレベルに調整し、オーディエンスをハッピーにしてください。

ノブに変化が加わると、出力信号レベルがメインメーターに表示されます。5 秒間操作がないと、元のメーターの状態に戻ります。



このノブには可動範囲が定められていませんが、パラメータには最小値と最大値が定められています。例えば、出力レベルが最大となった場合、ノブをいくら回してもその値を上回ることはありません。反対に、レベルが最小となった場合、ノブをいくら回してもその値を下回ることはありません。

出力レベル：-∞ dB (off) から +10.0 dB (max)

このノブは以下のような場合に、モーメンタリースイッチとして使用することもできます。

- ・ 1 回押すことで現在の出力レベルを確認できます。
- ・ 3 回押すことで現在の出力レベルをゼロにすることができます（音が出なくなります！）。
- ・ 2 秒間押したままにすることでバウンスするメーター（ピークメーターモード）とソリッドバー（ボリュームレベル）を切り替えることができます。

18. メインメーター

17 個の緑色 LED で構成されるメインメーターは、入力および出力を計測し、またリバーブセンドレベルや EQ のブースト / カットも表示します。

右側から数えて 3 つ目から 4 つ目あたりの LED がピークで点滅するようなミックスが良いです。恒常的に全ての LED が点灯するような場合、出力音は歪み、はっきりと再生されない場合があります。この場合、MASTER VOLUME ノブを下げてください。

オーディオメーターはあくまであなたのレベルを大まかに表示するツールにすぎません。そのため、常にじっと監視している必要はありません。

19. LIMITER LED

SRM-Flex にはリミッターが内蔵されており、クリッピングやオーバードライビングからアンプを保護します。リミッターが動作すると LED は赤色に点灯します。たまに赤色に点灯する程度であれば問題はありませんが、頻繁に点灯したり点灯し続けたりする場合は、それぞれのノブでレベルの調整を行ってください。



ください。

過度のリミッティングはオーバーヒートを引き起こす可能性があります。保護回路が働きスピーカーの動作が中断される場合があります。詳細は次のページの「熱保護」をご覧ください。

20. MIX OUT 端子

バランスオス XLR 端子で、サミングモノされた全ての入力端子のポスト DSP ミックスを出力します。チャンネル EQ、リバーブ効果は適用されませんが、プリメインフェーダーやスピーカー EQ、リミッターなどは適用されません。この端子を使用して、その他のラウドスピーカーに同じ信号ソースを入力することができます。

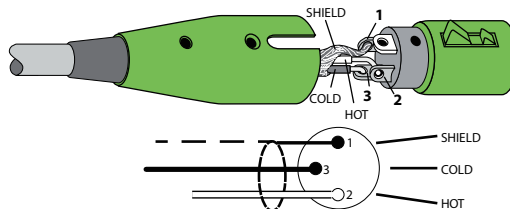
配線は以下のようになっています。これは AES (Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス XLR 出力コネクタ

Pin 1 = シールド (グラウンド)

Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)

Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)



保護回路

SRM-Flex は、ピークレベルにおいて歪みを少なくするためのリミッターを内蔵しています。ダイナミックな低域レスポンス回路は全体の出力レベルに関わらず、最適な低周波レスポンスを実現します。また自動サーマルシャットダウン機能も内蔵しており、アンプのオーバーヒートを防ぐことができます。クラス D のアンプ技術を搭載しており非常に熱効率が高いため、機能することは少ないでしょう。



プロテクション回路はある一定の状況下において、SRM-Flex を保護するためにデザインされています。もし警告サイン(過大な歪みなど)を無視することを選択した場合、アンプがクリップし始めるポイントを過ぎてオーバードライブを続け、スピーカーにダメージを与えることとなります。このようなダメージは保証対象外となりますのでご注意ください。

リミッター

ドライバーは一時的なピークによるダメージを防ぐため、それぞれコンプレッション回路を搭載しています。コンプレッサーはユーザーからは基本的に見えない部分で働きます。

オーバーエクスカージョン保護

パワーアンプ前段のサブソニックフィルターにより、超低域信号をカットすることができます。極端な低周波エネルギーはウーファーにダメージを与える可能性があります(オーバーエクスカージョン)。

熱保護

全てのアンプは熱を生み出します。SRM-Flex は電氣的・熱处理的の双方にとって能率が良いように設計されています。もしアンプがオーバーヒートしてしまった場合、内蔵されているサーマルスイッチが有効になり、信号をミュートします。

アンプが安全な操作ができる程度の温度まで下がったら、サーマルスイッチがリセットされ、SRM-Flex は通常のオペレーションに戻ります。

もしサーマルスイッチが有効になった場合、レベルを僅かに下げて頂き、アンプのオーバーヒートを避けるようにしてください。直射日光や熱を帯びるステージ照明などは、オーバーヒートの原因となる場合がありますので、ご注意ください。

AC 電源

SRM-Flex を接続するコンセントが、ご使用のモデルに適した電圧を提供することを確認してください。必要電圧を少し下回ってもスピーカーは作動し続けますが、フルパワーを発揮することはできません。接続された全ての機器に対して必要な電力を確保できているか確認してください。

アンプは AC ラインに高い電力を要求するので、堅実で強力な AC 電源を供給することをお勧めします。供給される電力が多い程スピーカーの音量は大きくなり、ピーク出力が増大してクリーンかつ迫力のあるベースサウンドを得ることができます。ベースサウンドが迫力に欠ける場合、原因の多くはアンプに供給される電力不足が考えられます。



電源コードのグラウンドピンやスピーカーの部品は絶対に取り除いたり取り外したりしないでください。大変危険です。

お手入れとメンテナンス

本製品は、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- ・このスピーカーを霧にさらさないでください。野外で使用する場合は、雨がかからないようカバーをしてください。
- ・極端に温度が低い場所(氷点下)に置かないでください。気温が低い場所で使用しなければならない場合は、高出力で動作させる前に15分ほど低いレベルの信号を送って、ボイスコイルを温めてください。
- ・キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。また、電源が確実に切れていることを確かめてください。キャビネットの開口部から霧を内部に侵入させないように注意してください。特にドライバーが入っている部分には注意してください。

設置について

SRM-Flex は床やステージにメイン PA として直接設置することができるよう設計されています。



絶対にスピーカーのハンドルを利用して吊り下げないでください。

SRM-Flex を設置する表面（床など）に関して、本体の重さに構造的に耐えることができるか確認を行ってください。

電源を内蔵する機器と併用する場合は、湿気を避けてください。悪天候下にラウドスピーカーを設置しないでください。屋外へ設置する際は、雨を避けるようにしてください。

ルーム・アコースティック

SRM-Flex はほぼ全てのアプリケーションに対応できるよう設計されています。

しかし、部屋の響きというのはシステム内のサウンドを決定付ける上で重要な役割を果たします。一方で広い範囲に高域の音を届けることができる SRM-Flex は、部屋の響きによる問題を最小限まで抑えることができます。

以下はよくある部屋の響きの問題を解決するための設置テクニックです。ご参照ください：

- ・スピーカーを部屋の隅に設置した場合、低域が増幅され、サウンドがぼんやりしはっきりしません。
- ・スピーカーを壁際に設置すると、低域が増幅しますが、隅に設置した場合ほどではありません。使いようによっては低域を増幅させる一つの良い方法となります。

- ・スピーカーをへこみのあるステージフロアーに直接置くことは避けてください。へこみのあるステージは一定の周波数帯に共鳴し、帯域のある部分に急激なピークを作ったり、または急激な降下部分を作ったりします。スピーカーの重さに耐えられるような頑丈なスタンドのご利用をお勧めします。

- ・高域ドライバーが観客の耳の高さから 60cm ～ 120cm 程高くなるようにスピーカーを設置してください（ダンスをしたり、立って聞いているオーディエンスにも音が届く余裕を作ってください）。高域は指向性が非常に限られていて、また低域に比べると非常に吸収されやすい特徴を持っています。高域はラウドスピーカーから直線的に観客の耳に届くため、サウンドシステム内の全体的なきらびやかさや明瞭さを担う役割を持っています。

- ・ジムやオーディトリウムなどといった反響しやすい部屋では、サウンドの明瞭さを保つのは容易ではありません。壁や天井、フロアーなどによる複数の反射により、サウンドは制御しようがない状態になってしまいます。シチュエーションにもよりますが、反響を最小限に抑えることもできます。例えば、フロアーにカーペットを敷いたり、カーテンで大きなガラス製の窓を覆ったり、壁にタペストリーを掛けたりするのが効果的です。

しかしながら、多くのケースではこういった方法を実践することができなかつたり、有効でない場合もあります。では、どうしたら良いのでしょうか。単純にシステムのレベルを上げるだけでは、反響もそれだけ増すため効果的ではありません。最も効果的なアプローチは、観客に可能な限り直接的にサウンドを届けることです。スピーカーから離れれば離れる程、反響するサウンドも目立つようになります。

SPEKAER MODE はこれらの問題を解決することのできる有効な方法です。詳細は P.15 をご覧ください。

付録 A：サービスについて

スピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。電源アダプターは接続されていますか？コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。
- 次にお気に入りの質問です：電源スイッチをオンにしましたか？そうでなければ、スイッチをオンにしてください。
- 電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと差し込まれていますか？
- トップパネルとフロントパネルの POWER LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認してください。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 内部の AC ラインヒューズがとんでいませんか？これはユーザーご自身で対応できる症状ではありません。AC ラインヒューズに問題があることが疑わしい場合は、次の「修理」のセクションをご覧ください。

音が出ない

- 入力レベルを絞っていませんか？システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。レベルメーターを見て、SRM-Flex が信号を受け取っているか確認してください。
- シグナルソースは機能していますか？ケーブルに問題がないこと、両端でしっかり接続されていることを確認してください。ミキサーなどの出力レベルコントロールが、このスピーカーの入力をドライブするのに十分なだけ上がっていることを確認してください。
- 入力ソースにミュートがかかっていないか、またプロセッサのループが発生していないか、確認してください。このような状況の場合、問題の機器を外す前に必ず音量 / ゲインを下げてください。
- シャットダウンされていませんか？スピーカーの背後に少なくとも 15cm 程度のスペースを空けるようにしてください。

音が良くない

- 音量が大きすぎて歪んでいますか？信号経路で過大入力となっている原因がないかを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 入力コネクタが端子に最後までしっかり差し込まれていますか？全ての接続に問題がないことを確認してください。

ノイズが出る

- スピーカーに接続している全ての機器の出音に問題がないことを確認してください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか？ AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続してください。

ハム

- 入力端子に接続したケーブルを抜いてください。これでノイズが消えた場合、スピーカーには問題がなく、グラウンドループによるノイズが発生しているのかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続してください。
- 可能な場合は音響機器の電源コードを全てコモングラウンドを共有するコンセントに接続してください。コンセントとコモングラウンドの距離は可能な限り短くしてください。

付録 B：技術情報

SRM-Flex 仕様書

音響特性

周波数特性 (-10 dB)	40 Hz - 20 kHz
周波数特性 (-3 dB)	50 Hz - 20 kHz
水平方向カバレッジ	90°
垂直方向カバレッジ	40°
最大 SPL ピーク	118 dB

トランスデューサー

低域ユニット	10 in / 254 mm フェライト
高域ユニット	2.0 in / 51 mm × 6 シルクドームツイーター

パワーアンプ

システムパワーアンプ	
定格出力	1300 W (PEAK)
パワーアンプ [低域]	
定格出力	1000 W (PEAK)
THD	< 1%
冷却	対流
動作方式	クラス D
パワーアンプ [高域]	
定格出力	300W (PEAK)
THD	< 1%
冷却	対流
動作方式	クラス D

システムプロセッシング

ボーシング	3 スピーカーモード
リバーブ	Off, 1 (ショート)、2 (ミディアム)、 3 (ロング)

イコライゼーション

低域	+5 / -15 dB @ 90 Hz
高域	+5 / -15 dB @ 6.0 kHz

入出力

入力タイプ	XLR メスバランス × 2
	1/4 インチバランス / アンバランス × 4
	1/8 インチステレオ
マイク - ラインインピーダンス	8 k Ω バランス
1/4 インチ Hi-Z インピーダンス	1M Ω アンバランス
MIX 出力	XLR オスバランス
MIX 出力インピーダンス	600 Ω バランス

Bluetooth

Bluetooth プロトコル	4.2
Bluetooth 機能	オーディオストリーミング / UI コントロール
Bluetooth Class	Class 1

クロスオーバーポイント

クロスオーバー周波数	600 Hz (18 dB バターワース)
------------	-----------------------

ライン入力パワー

着脱可能電源コード	~100 - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 110W
AC コネクター	3 ピン IEC 250VAC, 10A オス
電源タイプ	スイッチモード

保護機能

入力保護	リミッター (RMS, PEAK) 電源、アンプ温度保護
ステータス情報	入出力レベル, リバーブレベル SIG / OL, EQ 設定, スピーカーモード

構造

基本設計	アシンメトリー
材質	ポリプロピレン
仕上げ	黒色ポリウレタ
グリル素材	パンチングメタル
グリル塗装	パウダーコートブラック
ハンドル	ベースステーション天面 × 1
ディスプレイ LED	電源
	フロント : トップ :
動作温度	POWER, LIMITER, Bluetooth
	0 - 40°C 32 - 104°F

SRM-Flex 仕様書

寸法 / 重量

ベースステーション:

高さ	17.0 in / 432 mm
幅	13.0 in / 330 mm
奥行き	14.2 in / 361 mm

高域モジュール:

高さ (モジュール毎)	22.5 in / 572 mm
高さ (モジュールトータル)	67.5 in / 1715 mm
高さ (トータル w/ ベース)	79.0 in / 2007 mm
幅	2.8 in / 71 mm
奥行き	3.0 in / 76 mm

重量 合計 13.4 kg

アクセサリ (同梱)

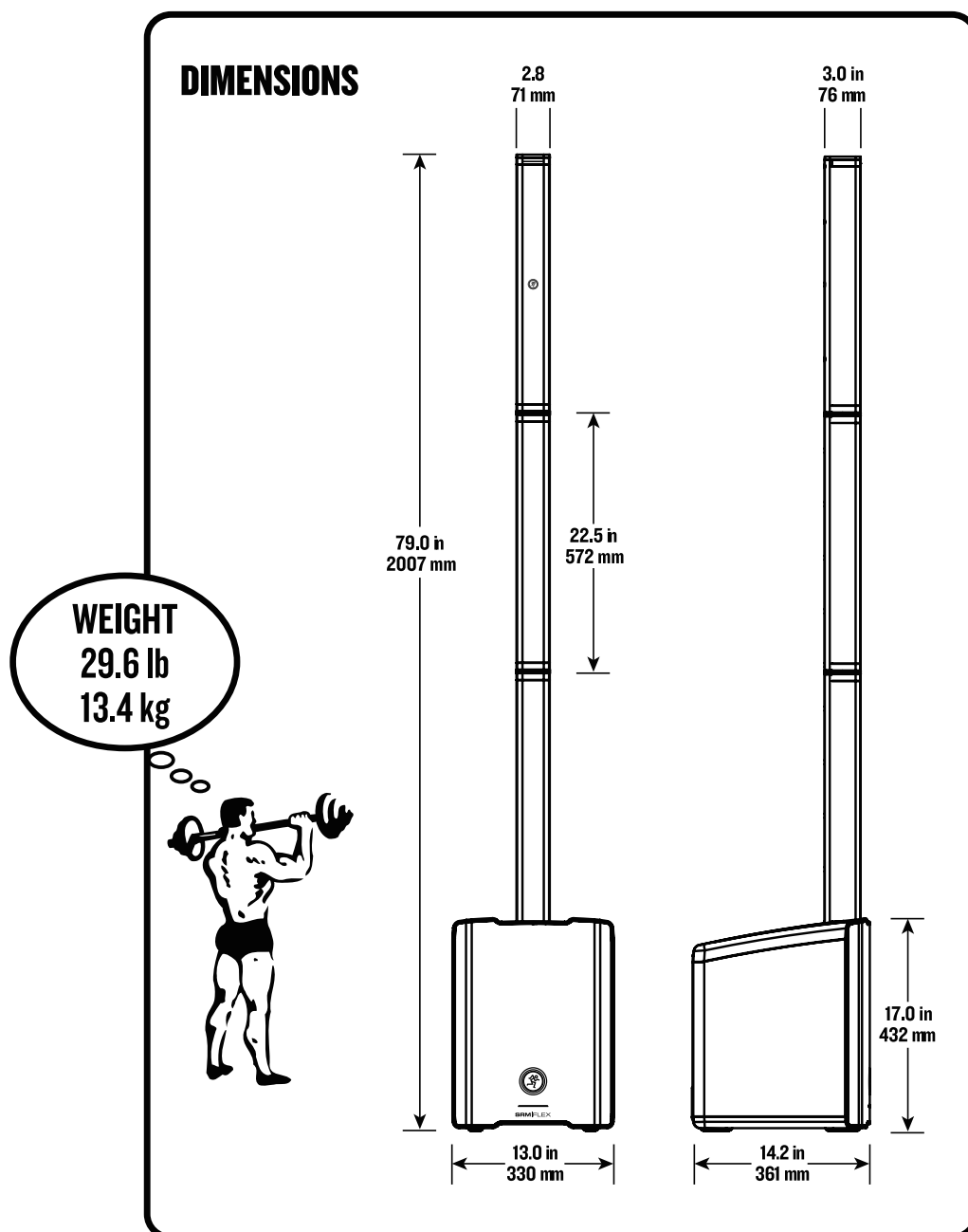
SRM-Flex Carry and Cover Kit

P/N 2051980-00

LOUD Audio 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

SRM-Flex 寸法



SRM-Flex ブロックダイアグラム

